

## 西オーストラリア パース 「エメラルドグリーンの輝きは??」

前回ケアンズに行き、グレートバリアリーフと熱帯雨林を堪能できたので、今回の旅は、「白い砂漠とエメラルドグリーンのインド洋」、このすばらしいコントラストを楽しみに、はるばるシンガポール経由15,6時間も掛けて、パースへやって来ました。

一日目は、深夜2時着だったので、朝9時までホテルで、ゆっくりとくつろいで朝食をとり、9時過ぎから行動開始。本当の予定は、今日4WD砂漠ツアーに行き、明日、島へイルカと泳ぎに行く予定だったが、深夜2時着で、朝7時出発のツアーはちょっときついで、大変更して、今日は完全フリータイム。パースの街をざっと歩いて、大ざっぱに土地感をつかんでおく。やっぱりインド洋が見たいので、フリーマントルの港町に行ってみようと、パース駅に向かう。オーストラリア国鉄の料金表見ていると、ゾーン別に分けられているみたい。自販機で購入できるのは、1,2,3,4ゾーンまでで、それ以遠は窓口購入のようだ。

さて俺達二人の行き先は、2ゾーンで3ドルです。海外に出ていつも感じるのは、公共交通料金の安さ。何でこんなに日本と差が大きいのか?時間にして40分程、駅の数で10駅位で到着です。

フリーマントルはとても美しい清潔な港街。待望の「インド洋」がありました。濃い緑色した大海原と濃い青色の空が、水平線で混ざり合って一体化している。「う~ん!美しい」。それでも、俺のイメージしていたインド洋とちょっと違います。海と空はいいけれど、コンクリートの埠頭や貨物船がじゃまかな。「真っ白な砂丘の向こうに、エメラルドグリーンの海と紺碧の空があれば、パッチリイメージどおりなのだけどな~」。明日砂漠へ4WDツアーに行き行って写真を撮って来ましょう。

フリーマントルの街は、まるで映画のセットのよう。町並みが、道路に面した所だけに建っている。街に生活臭が感じられない。観光客の為に作られている街なのかもしれない。街に入って少し歩いた頃に、小さなサンドイッチ屋さんがあったので、その店でランチタイム。日本のサンドイッチと比べると、格段にボリュームが違う。中に挟んである具があふれる程だ。これ一つでギブアップもう何も食べられません!

さあ、腹ごなしに街歩きです。おみやげ屋さんをブラブラ。どこの店にでも置いてある品に、羊毛から採った「羊オイル」、オーストラリアダチョウから採った「エミューオイル」。そしてこの2つから作ったシャンプー、クリーム、オイル、などなど。どうもこ

のオイルと原住民のアポリジーの民芸品、これぐらいがおみやげの主流みたい。オイルは2、3 買って見たけど、民芸品はカナダのインディアン民芸品とおなじで、少数民族保護の税金が含まれているせいかとても高価。気軽には買えないので見るばかり。

街の中には、カフェがたくさんあり賑わっていたので、「ここでランチをとれば良かった」とくやむ。それにしても、年末年始のゴールデンシーズンなのに、フリーマントルの街中に日本人の姿を見かけないのはなぜでしょう。

そろそろ 5 時頃なので、埠頭近くのカフェでアイスクリームを食べて、帰りの電車に乗る。電車の中は、5 割方座っている。俺達夫婦の前の座席にも3人連れのおばあちゃん達が座っている。軽く会釈すると、色々話し掛けてきた。耳が遠いようなので、隣の席に移ってパース駅まで、お話ししてひまつぶし。一番お話好きのおばあちゃん〔82歳〕は、エジプトのアレクサンドリア生まれで、イギリスのロンドンとフランスのパリに住んでいたと言っていた。特に、パリが永かったみたいで、ちょうど持ち合わせた会話メモ帖に、パリに行ったときの会話例がメモしてあったので、フランス語で少し話してみたら大受け。パリのどこへ行ったか、何が良かったかと、とても懐かしいと感激してくれた。おばあちゃんは、パリに住んでいた時代が一番楽しかったみたい。一緒に記念写真を撮ったりしている内に、もうパース駅に到着。おばあちゃんに「パースだよ」と教えられ、あわてて降りる。「シーユーアゲイン、バイバイ！」

パースの目抜き通りをブラブラとホテル方向に歩きながら、お店屋さんを覗いて廻る。今夜だいたい下見しておいて、明日の夜と帰る日の午前中におみやげを買い揃えなくちゃいけないから。

ところで今夜のご飯だけど、オーストラリアらしい料理ってなんだっけ？二人で考えても、牛肉とマトン、これ位しか思いつかない（B級グルメ限定だから）。とりあえず、OZビーフに決定！

ステーキレストランはどこかにないかとキョロキョロしながら、ホテル方向へ歩いて行くと、ちょっとこぎれいなコリアンレストランを発見。ガラス越しに中を見ると、ほぼ満席状態。ここに決めた！何とかテーブルを確保して、周りの席をみると、全員オーストラリア人らしき人ばかり。グリルで何か焼きながら、ワインを飲んでいる。焼肉と言えばビールでしょう！まずは「2 ビアー！」。それから「2 グリル、カルビビーフ！」オーストラリアビールで、まずは乾杯！たらふく食べて飲んで満腹デ～ス。7000円也ちょっと、リッチ飯だったかな？さあ今夜は、ゆっくりと早寝しましょう。

もう3日目になってしまいました。今日は、今回の旅唯一のオプションツアー。朝7時30分、ホテル出発の「4WDサファリーツアー」です。大きなタイヤを付けた、イカツイ車がやって来ました。日本からインターネット予約したコピーを見せてOK。「おはようございま〜す」1組のカップルを除いて、残り6人は日本人。「さあ、出発か」と思いきや、もう一軒ホテルに寄って、日本4名乗せて満席です。さすがに「カキイレドキ」。昨日のフリーマントルと大違い。日本人が一杯です。

さあ、今度こそ出発です。15分も走ると、もう町並みも途絶えて、牧場とブドウ畑ばかり。そんな景色ばかりを1時間走ってトイレ休憩。あけみさんが膀胱炎気味なので、これは有りがたい。10台以上の4WDが駐車しているが、ほとんどが日本人観光客。花のジュースとチョコレートを買ってGO！行けども行けども、目に入るところ全て牧場ばかり。3度目の休憩でランチタイム。広い食堂でサンドウィッチ、サラダ、ドリンクのパレットをもらう。他のグループを見ると、オマール海老の付いたのやら、ピフテキの付いたのやら色々なグループがいる。「なるほど、インターネットで4WDツアーの料金が3、4種類あったのは、ランチメニューの差だったんだ」と納得しました。ちなみに私達は、一番安いツアー料金でした。

さあ、お腹もふくれて出発です。めざすはピナクルス。このあたりにくると、ブッシュ地帯に入り、砂地に灌木やらがちろちろ少し。砂漠の気配かな？道は、地平線まで果てしなく、真っ直ぐにつづく。1時間程でピナクルスに到着です。パース観光の一番メインにしては、あまりにもチンケ（失礼！）。これじゃペンギンさんの群れじゃん。観光パンフレットでは、写っているものは全部、砂漠の中にある石柱ばかりで、トルコの Cappadocia のようなとても大きいものと思っていた。道理で人間と一緒に写っていない訳ですよ。

仕方ないから、とりあえず写真をパチリ。「動物に似たものもこちらにありますよ！」と誰か。「ハイハイ……お地蔵さんに似たのだってありますよ！」と私。何かがつかりして、気が乗らなくなっちゃった。ここで一番のすごかったのは、リムジン仕様の4WDを見た事かな。

さあさあ、次の砂丘に行きましょう。1時間余り走るとありました、大きな真っ白な砂丘です。まずは、4WDのパワーで砂丘全力疾走。急斜面の滑り降り、斜面登り。急斜面上部で停止して、ツアー客全員徒歩で滑り降り。かなりの角度です。全員、おしりで滑り降りました。次が一番高い砂丘に、4WDで登って待望のサンドボードです。ボードにワックスを塗りこんで、お尻に敷いて直下降。かなりのスピードに転倒者続出。私は転倒なしで、下までいきました。ウマイ！40分程遊んで終了。

砂漠の中には、2輪トレール車や4輪バギー車のレンタル屋さんが何箇所かあって、たくさんのバイクやバギーが斜面を疾走していた。俺も走ってみたいな～、とながめつつ帰路につく。

帰る途中、ブッシュの中を走行中に、エミューの群れ発見！エミューと車のスピード比べのパフォーマンス。ものすごい速さ。80km/h位出ていたかな。そんなこんなで、ウトウトと居眠りしている間にホテル到着です。お疲れさ～ん、サンキューグッバイ！

さあ！今から部屋に帰ってシャワーで砂を落として、着替えて晩ご飯食べがてら、おみやげを買いに行かなくちゃ。昨日、下見して置いたお店をキョロキョロ見れまわったが、大した物もないので、ちょっとしたものだけ買い、残りは乗り継ぎのシンガポールの空港で買うことにして、晩ご飯にする。この晩ご飯が、何を食べたのか思い出せないほど印象に残らない食事だった。

まだ明日お昼 2 時まで半日時間があるから、今夜は帰って寝ましょう。今日は、最後の4日目です。朝8時に朝食をとって、9時にチェックアウト。荷物をキープして、14時までパースを満喫します。

あけみさんの買い物で、ルイ・ビトンの直営店へ行ったけれど、お店は11時オープンなので、あきらめて、ショッピングモールへ。食品売り場でフルーツチーズ（これはとても美味しくて大人気）、おなじみのビーフジャーキー、孫へのお菓子、ソーセージ、瓶詰め、缶詰などなどを買込む。お昼頃なので、モールの地階に降りてみると、フードコートで、ランチタイムで世界各国の料理があった。あけみさんは中華料理、俺はイタリアンとトルコ料理の、ちょっと甘口の、ローストビーフもどきを持ち寄りランチ。食事しながら、今回の西オーストラリアは、「遠くて時間ばかりが掛かって、余り見所も少なくてがっかりだったね」とブツブツ。こんなことなら、ケアンズかゴールドコースト辺りに行っとけば良かった。

でも旅というのは、観光や買い物や食事や人との出会いなど、いろんな楽しみ方があるから未知の土地を知っただけでも良かったんじゃない？次回は楽しい所を探しましょう、となぐさめる。さあ、又15、6時間掛けて日本に帰りましょう。